

観光需要予測オープンデータ開発・活用推進事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- ・ 高山市では、2024年に76万人のインバウンドの宿泊者を受け入れる等観光需要が高まっている。
- ・ 一方で、特定の時期には夕食難民が発生したり、冬季は需要が減少したりする等、時間帯や季節による需要の変動が大きい。繁閑差により食品ロスや人員配置の非効率が発生しており、事業者の経営に影響を及ぼしている可能性が高い。
- ・ 本事業では、AIを活用して旅行者の需要を予測するとともに、需要予測を可視化して事業者に共有することで、事業者が予測データを活用し仕入、人員配置、価格設定等の最適化に取り組むことが可能な環境整備を目指す。
- ・ 将来的には、地域全体でのオープンデータ活用を促進し、予測精度の向上及び事業者からの情報提供の好循環を生み出すことで、持続可能な観光地経営モデルの構築を目指す。

事業概要

宿泊、飲食、交通、イベント等の多様なデータを統合し、AIを活用して需要予測モデルを構築する。需要予測はウェブアプリで可視化し、事業者が日々の業務に活用できるようにすることで、仕入、人員配置、営業時間の最適化を支援する。また、事業者のデータ活用を通じて予測の有用性を検証し、地域全体でのデータ提供と活用の促進を図る。

取組地域： 岐阜県高山市

コンソーシアム名： 飛騨高山観光需要予測オープンデータ開発・活用推進実行委員会

代表事業者： 一般社団法人飛騨・高山観光コンベンション協会

実証内容

1. AIによる宿泊、飲食、交通、イベント等のデータを活用した需要予測モデルの導入
2. ウェブアプリでの需要予測の可視化及び事業者が常時オープンデータにアクセス可能な環境の整備
3. オープンデータを活用した、事業者の施策実行による業務効率化と消費拡大

目標値

KGI 地域事業者の売上、利益額向上(300万円)

KPI オープンデータを活用した地域事業者数(30事業者)

